



# 北海道医療大学大学院

## 教育理念

生命の尊重と個人の尊厳を基本として、保健と医療と福祉の連携・統合を図る教育を推進し、人間性豊かな高度専門職業人の養成ならびに独創的な研究活動を通して、社会の発展と人類の幸福に寄与することを北海道医療大学大学院の教育理念とする。

## 教育目標

1. 豊かな学識と人格の養成
2. 高度な専門知識および学術の修得
3. 独創的な研究および研究能力の開発
4. 社会の要請に的確に対応できる教育・研究の推進

# リハビリテーション科学研究科 博士前期（修士）課程

## 教育理念

本大学院の教育理念を基本として、高度化、多様化が進む現代の保健・医療・福祉分野において、先進的な専門知識と技術を身につけ、質の高いリハビリテーションを実践できる人材を養成することにより、人々の保健・医療・福祉の要請に応え、地域社会ならびに人類の幸福に貢献することをリハビリテーション科学研究科リハビリテーション科学専攻（修士課程）の教育理念とする。

## 教育目標

1. 先進的な専門知識および技術を備え、質の高いリハビリテーションを展開できる人材の養成
2. 保健・医療・福祉の現場で、優れた管理・指導能力を持って指導的役割を担うことのできる人材の養成
3. 科学のおよび学際的視点から臨床的課題を解決することのできる人材の養成

## 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

リハビリテーション科学研究科リハビリテーション科学専攻（修士課程）では、地域における保健・医療・福祉の充実に携わること強い意欲を持ち、高度専門職業人としてリハビリテーションの実践に寄与すべく自己研鑽できる人材を求めます。

## 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

以下の要件を満たし、高度専門職業人としてリハビリテーション科学の実践に寄与できる優れた知識・技術と研究能力の基礎を修得したと認められる者に対して、「修士（リハビリテーション科学）」の学位を授与する。

1. リハビリテーション科学研究科リハビリテーション科学専攻（修士課程）に2年以上在学し、本研究科が定める履修上の要件を満たしている。
2. 研究指導を受け、学位論文を提出し、本研究科が行う論文審査および最終試験に合格している。

## 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

リハビリテーション科学研究科リハビリテーション科学専攻（修士課程）の学位授与の方針に基づき、以下の方針のもとで教育課程を編成・実施する。

1. 授業科目は、リハビリテーション領域における高度専門職業人としての管理・指導能力や研究遂行能力の基盤を培う「共通科目」、最新の専門知識と技術を学び臨床実践能力を高める「専門科目」、関連学問領域を学ぶ「応用特色科目」、ならびに「研究指導」によって構成される。
2. 共通科目には、組織をマネジメントする能力を育成するための教育法や管理学に加え、臨床研究を遂行する上で必要な研究法や統計学に関する科目を配当する。
3. 専門科目には、各障害に対するリハビリテーション学分野の最新知識と技術、障がい者や高齢者などの地域生活支援に関して学ぶ科目を配当する。
4. 応用特色科目には、学際領域であるリハビリテーション科学の臨床および研究実践に対応する上で必要な医科学系、心理学系、社会福祉学系の科目を配当する。
5. 研究指導では、修士論文作成を行い、リハビリテーション科学における諸課題を追及する。
6. 入学時志願者調査書や初期研究課題および学修カリキュラムにおける必修科目、選択科目の履修状況（修得単位数、GPA）、また、特論、演習科目の評価は、プレゼンテーション・討論の参加状況やレポート等を用いて評価する。修士論文作成に当たり、指導担当教員による研究指導を研究科として系統的に行い、課題研究達成度および最終年次における論文審査、最終試験、公開最終発表会により査定する。

# リハビリテーション科学研究科

## 博士後期課程

### 教育理念

本大学院の教育理念を基本として、修士課程で修得したリハビリテーション科学に関する能力を基盤として、保健・医療・福祉分野における高度な学識と新たな真理を探究することのできる優れた研究能力を有する人材の養成と、リハビリテーション医療に対するすべての人々の要請に応え、保健・医療・福祉分野において科学的根拠に基づく専門能力を地域社会に適用し、指導的立場で活躍できる有能な教育者および実践指導者の養成を通して、社会の発展と人類の幸福に貢献することをリハビリテーション科学研究科リハビリテーション科学専攻（博士課程）の教育理念とする。

### 教育目標

1. 高度な学識と研究能力を備え、質の高いリハビリテーション科学の探究と確立に寄与できる人材の養成
2. 保健・医療・福祉の分野において、科学的根拠に基づく専門能力を地域社会に適用し、指導的立場で活躍できる有能な教育者および実践指導者の養成

### 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

リハビリテーション科学研究科リハビリテーション科学専攻（博士課程）では、リハビリテーション科学の発展に寄与し、リハビリテーション医療における科学的根拠を探究すべく先進的研究活動を実践できる研究者または指導的立場で活躍できる教育者および実践指導者を目指す強い意欲を持つ人材を求めます。

### 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

以下の要件を満たし、保健・医療・福祉の分野において、リハビリテーション科学に関する高度な学識と研究能力および教育能力を修得し、リハビリテーション科学の発展を通して社会に貢献できると認められる者に対して、「博士（リハビリテーション科学）」の学位を授与する。

1. リハビリテーション科学研究科リハビリテーション科学専攻（博士課程）に3年以上在学し、本研究科が定める履修上の要件を満たしている。
2. 研究指導を受け、学位論文を提出し、本研究科が行う論文審査および最終試験に合格している。

## 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

リハビリテーション科学研究科リハビリテーション科学専攻（博士課程）の学位授与の方針に基づき、以下の方針のもとで教育課程を編成・実施する。

1. 本専攻では、「生体構造機能・病態解析学分野」「リハビリテーション治療学分野」「地域健康生活支援学分野」の研究分野を設ける。
2. 授業科目は、各分野における特講・演習、ならびに研究指導によって構成される。
3. 研究指導では博士論文作成を行い、リハビリテーション科学を進化させ、科学的根拠を探求する。
4. 学修目標に対する教員評価、修了生アンケートなどの結果に加え、単位取得状況やGPAにより査定する。特論、演習科目の評価は、プレゼンテーション・討論の参加状況やレポート等を用いて評価する。課題研究達成度および最終年次における論文審査、最終試験、公開最終発表会により査定する。また、研究能力を生かす高度医療専門職としての就業や就職率および研究への貢献を査定する。

## リハビリテーション科学研究科の特色

本研究科では、次の3分野を教育・研究の柱としている。また、学際領域としてのリハビリテーション科学を発展させるために、本学の関連諸学問分野（医学・歯学・薬学・看護学・臨床福祉学・臨床心理学）との有機的な連携を図りながら教育・研究を推進していく。

### 1) 生体構造機能・病態解析学分野

理学療法や作業療法をはじめとするリハビリテーションの科学的基盤となる分野である。ヒトの正常な生体構造・機能や各種疾患に起因する生体構造・機能の変化とそのメカニズムを主な研究テーマとする。本分野には、解剖学、身体運動科学、運動・動作解析学の専門領域を置いている。リハビリテーションの科学的基盤となる医科学に関する最新知見を学習し、修得した専門知識と技術を活用しながら臨床課題を解決できる人材を育成する。

### 2) リハビリテーション治療学分野

各種障害に対するリハビリテーションの治療介入を主な研究テーマとする。本分野には、内部障害リハビリテーション、運動障害リハビリテーション、発達障害リハビリテーション、精神障害リハビリテーションの専門領域を設けている。各種障害に対するリハビリテーションの最新知見をもとに学習し、臨床現場において適切な障害評価と原因を追求できる、さらには科学的根拠に基づいたリハビリテーション治療介入を展開できる人材を育成する。

### 3) 地域健康生活支援学分野

地域社会において障害（児）者や高齢者が健康で主体的な生活を営んでいくための支援策を主な研究テーマとする。本分野には、作業行動学と地域生活支援学の専門領域を置いている。障害（児）者の日常生活活動への支援や高齢者の健康増進への取り組み等について学習し、医療のみならず保健や福祉の現場で対象者の生活を支援できる人材を育成する。